



洪水から身を守る

洪水発生のメカニズム

洪水は大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。

大雨によって川の水が増え、水かさが上がり始めます。

堤防ひびきまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の力で堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた堤場は一気に広がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市部は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透していくため、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

- 低地の冠水
- 地下への冠水
- 中小河川の増水氾濫
- 過去の浸水

※低地や道路のアンダーパスでは冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。

※地下が浸水する・
①地盤で排水ができない ②一気に水が流れ込む ③外の様子が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

※中小河川の増水氾濫

※過去の浸水あった所は、大雨の時、再び浸水するおそれがあります。
事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。

※過去の浸水(渓水実績)については、松山市のホームページで確認できます。松山市の浸水情報

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に強い雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	パケツをひっくり返したように降る(Gゴーと音が響く)	滴のようになる	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	足元が濡れたり	傘をさしても濡れる	寝ている人の半数くらい雨に気がつく	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
屋内(木造住宅想定)	雨の音で「声」がよく聞これない				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		
車の運転	ワイパーを速くしても見づらい	倒側すれば水道、小さな川が現れる	車の運転は危険		
災害発生状況	この程度でも多く降り続くなときは注意が必要。	倒側すれば水道、小さな川が現れる	都市では雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起つやすい多くの災害が発生する。	都市では大雨による冠水や地盤沈下による災害が発生する。土砂災害が起つやすい多くの災害が発生する。	

※雨に示した雨量と同じであっても、雨の強さや地形、被災の様子は異なることがあります。

防災気象情報の種類と内容を知る

災害発生の危険性を5段階でお知らせします

災害発生のおそれがあった場合、市や気象庁などから様々な情報が発表されます。これらの情報に注意し、段階に合わせた適切な行動をとらせてください。

警戒レベル	市民の皆さんとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保	災害が発生・初めている状況です。命を守るために最善の行動をとらせてください。	緊急安全確保 (松山市が発令)*	大雨特別警報など
（警戒レベル4までに必ず避難）			
警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動距離と避難される場合は、近い安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 (松山市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報など
警戒レベル3 危険な場所から 高齢者等は避難	ご高齢の方、障害のある方、乳幼児など、避難困難のかる人のそと支援者は避難行動をとりましょう。他の人の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (松山市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報など (気象庁が発表)	早期注意情報 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	必しもの順番で表示されることは限らないのでご注意ください。	

※可能な範囲で発令されるものあり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。

気象庁からの注意報・警報

大雨・洪水注意報 → 大雨・洪水警報 → 大雨特別警報

大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

大雨により甚大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

台風や集中豪雨により数十分に一度の降雨量となる雨が想定される場合に発表されます。

すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することを重要です。

危険水位について

石手川の水位

氾濫危険水位 6.10m
避難判断水位 5.50m

放流開始の通知 — 警報について —

・サイン局からの警報

放流開始約30分前及び放流開始直前に、アナウンスサインをお知らせします。

・サインの鳴らし方

「50秒間3回の3秒休みを3回繰り返します。」

・電光表示装置

石手川の渡瀬橋・松山市役所の7ヶ所に電光表示装置を設置しており、大雨が放流しているときは、「**雨のため河水位に注意**」と表示されます。

車の運転

車でも安全運転を心がけましょう。

災害発生状況

この程度でも多く降り続くなときは注意が必要。

大雨の際に水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起つやすい多くの災害が発生する。

わが家の防災メモ

ハザードマップを使ってわが家の防災メモを完成させましょう！

地図を確認して、該当するところにチェックを記入しましょう。

自宅の災害リスク

浸水深 □漫水無し □0.5m未満 □0.5~3.0m □3.0~5.0m □5.0~10.0m

家屋倒壊等氾濫想定区域 □氾濫の想定区域内 □河岸漫食の想定区域内 □想定区域外

浸水継続時間 □12時間未満 □12時間以上1日未満 □1日以上3日未満 □3日以上1週間未満

避難の方法 このハザードマップを参考にして、避難の方法を確認しましょう。

避難の方法 □室内待機 □垂直避難(階に避難) □立ち退き避難

避難場所 自宅から避難場所までの経路や時間を実際に歩いて確認しましょう。

避難場所 □自宅から避難場所までの時間

【メモ】避難時の持ち出しう品について、記入しておきましょう。

非常時持ち出し品チェックリスト

貴重品 □現金 □印鑑 □健康保険証・預金通帳 □コピー可

水・食料 □飲料水 □携行食・非常食 □ビスク・缶詰など

医療・衛生用品 □服用している薬 □救急医療品 □歯ブラシ・口腔ケア用品 □マスク □消毒液

避難用品 □ヘルメット・防災グッズ □懐中電灯 □ストリッパー □軍手 □ホイッスル

道具類 □携帯電話・充電器 □携帯ラジオ □電池 □時計 □ロープ

衣類 □上着(防寒着)・下着・靴下 □雨具(レインコート)

生活用品 □ウエットティッシュ・ティッシュ □タオル □ゴミ袋・ボリ袋 □レジャーシート

家族の名前 連絡先

緊急連絡先 電話番号

病院() ガス会社 電気会社 電水道

いざという時の連絡先

松山市内の市外局番は「089」です。

□消防(火災・救急・救助) (市外局番ナシ) 119

□警察(事件・事故) (市外局番ナシ) 110

□松山市消防局 926-9200

□松山市災害対策本部(設置時) 987-7000

□火災・救急病院の問い合わせ(テレホンサービス) 925-6622

□救急病院 925-6633

5.0~10.0mの浸水

●2階の屋根以上が漫水
●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

3.0~5.0mの浸水

●2階の屋根まで漫水
●水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

0.5~3.0mの浸水

●2階の床下まで漫水
●1階部分が漫水
●強い水流の中を歩くことは危険

0.5m未満の浸水

●床下漫水 ●大人のひざ下程度
●漫水の深さがひざ上になると、歩行は危険

「浸水ナビ」で詳しい浸水リスクを確認しましょう

地図別浸水シミュレーション検索システム「浸水ナビ」で、
・どの河川が氾濫した場合に浸水するか
・河川の決壊後、どれくらいの時間で氾濫した水が到達するか
・どれくらいの時間、浸水が継続するかなど、ピンポイントの詳細な浸水リスクが確認できます。
自分が住んでいる地域に、どのような被害が想定されているのか、事前に確認し、適切な避難行動につなげましょう。

1 事前の確認

マップで浸水の深さを事前に確認しましょう
ハザードマップで自宅周辺の浸水の深さや家屋が倒壊・流出する危険性を確認しておきましょう。

2 避難先を事前に決めておきましょう

浸水の深さに応じた避難行動や、避難先を決めておきましょう。また、避難までの経路と時間も確認しておきましょう。

3 状況に応じた避難行動をしよう

※安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。

4 適切な行動 情報を確認し、落ち着いて事前に決めておいた避難行動をとりましょう。

いつ避難するかを決める!

早めに避難をしましょう
命を守るために、早めの避難を心掛けてください。
海面・河川・水路などには絶対に近づかないようにしましょう。

情報に基づき避難の判断をしましょう
避難の決定は、様々な情報から決まります。特に避難情報は命を守る重要な情報です。

**避難場所は、小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。**

大・雨・洪・水・時・の・避・難・の・ポ・イント

ひざ上まで水につかると歩きにくくなります
ロープにつながって
足元に注意
車は使わず、歩いて避難
子どもやお年寄りを安全に
危険なところは避ける

その他、避難のときに注意すべきこと

その他の避難のときに注意すべきこと

5 特に注意が必要なところ

地下空間
アンダーパス(地下道)
車(運転中)
河原

川の水位情報

河川に設置されている通常水位計や危機管理型水位計で観測した最新の河川の水位情報を、バーコンスマートフォンで確認できます。また、河川監視カメラの映像も確認できます。非常に詳しい避難行動などに活用してください。

6 SNS・ホームページ

●松山市ホームページ ●松山市公式LINE ●松山市防災情報Facebook

Facebook・X(旧Twitter)では松山市からの情報をシェアしたり、リポスト(リツイート)したりすることで情報拡散できます。

浸水キックル(大雨警報(浸水警報)の危険度分布)

高 傷害初回 危険 危険 危険 注意 低 今の情報(実績)

●危険度分布の色が持つ意味と行動などの例

注意 今後の傾向や周囲の状況。
警戒 安全確保行動を取る準備をし、早い行動を心がける。
危険 立ち退き避難や安全確保行動をとる。
災害直撃 (警戒レベル2相当)
災害直撃 (警戒レベル4相当)